

【函館市】校務 DX 計画

1 校内ネットワークの再構築

函館市は、令和 9 年度に校内ネットワーク環境の再構築を予定している。具体的には、スイッチ・ルータ等の各種ネットワーク機器の更新のほか、校務系・学習系のネットワークの統合と、災害発生時に校務データを保護するため、各学校に配置したオンプレミスの NAS からクラウド上のファイル共有システムに変更する。

2 校務支援システムの利活用

平成 30 年度に校務用端末から専用回線を経由して、クラウド上に構築した校務支援システム（C4th）を利用し、学籍、成績、保健等の情報を管理している。令和 7 年 4 月から専用回線を経由せずにセキュリティ対策を講じたうえで、学校内の利用に限りインターネット回線から校務支援システムにアクセスする。今後は、自宅や公共施設から校務支援システムを利用するため、情報セキュリティポリシーおよび在宅勤務要領を更新する。

3 保護者連絡ツールの利活用

令和 7 年度から各学校において、学校と保護者間のコミュニケーションツールとして、teturu を導入する。保護者はいつでも欠席連絡をアプリケーションで通知することにより、教員の電話対応の時間を削減できるほか、学校からの連絡事項を紙からアプリケーションに変更することにより紙を削減することができる。

また、校務支援システムと連携することにより、校務支援システム側では、児童生徒の欠席連絡を自動的に取り込み、教員の登録作業を軽減できるほか、teturu 側では、名簿情報が連携されることから、名簿情報の作成が不要となり、登録の手間やミスを削減することができる。

4 FAX・押印の見直し

令和 7 年度から FAX・押印の見直しに着手する。具体的には、FAX を廃止することにより、送受信側ともに紙の消費を抑えることができ、対象物を複合機でスキャンのうえ、電子ファイルとして相手方にメールで送信する方法に変更する。

押印について、校務における押印対象一覧を作成のうえ、各学校と共有のほか、法令等により押印が義務付けられている以外の軽易な文書のみ、押印廃止としたい。

5 教員の労働時間削減と教育の質の向上

令和 6 年度までは、学力向上を主たる目的として、中学生を対象にデジタル AI 学習支援ドリル「ドリルパーク」を導入しているが、今後導入範囲を小学生まで拡大することで、AI ドリル自動化の効果から、教員の宿題作成時間および添削・指導時間の削減に

においても期待できる。

また、削減により時間の余裕ができるため、授業準備や教育研究に注力できることにより、教育の質を上げることと、児童生徒の学習データにより弱点を特定し可視化できることから、児童生徒に対するきめ細かい指導が可能となる。

6 函館市教育情報セキュリティポリシーの更新

令和8年度までに、国の方針を踏まえ、校務系・学習系ネットワークの統合、校務支援システムのクラウド化および在宅勤務等の内容をもとに、函館市教育情報セキュリティポリシーを更新する。